

仕合わせの和



第195号

H. 30. 6. 1

(毎月1日発行)

布施

住職 谷川寛俊

布施とは、私達が覚(さと)りを得るための実践・修行の方法として示されたもので、別名『檀那波羅密(だんなはらみつ)』とも言います。即ち無貧の心をもって仏及び僧、あるいは貧窮(ひんきゆう)の人に衣食等を施すこと、また日常生活の中の親切な行いも布施の一つでもあります。一般世間の中でも、人を尊敬して檀那、旦那さまと呼びますが、これは先に述べた『檀那波羅密』の檀那を取った言葉で、布施行(ふせぎよう)を行う人を尊敬した言葉でもあります。

布施には「財施」・「法施」・「身施」・「無畏施(むいせ)」があります。「財施」とは、物質的な布施であり、物やお金などを布施して、世のため、人のために奉仕することは大変大切なことであります。「法施」とは、出家者(僧侶)がお釈迦様の教えを人々の心に植えつけ、

迷いの世界から覚りへと導いていく行いでもあります。仏の理想の世界を実現する為に、人々に仏の教えを伝えることは大変に重要な布施と言えます。出家者が在家者に法施をし、在家者が出家者に財施をする。これを『財法二施(さいほうにせ)』とも言います。

次に、「身施」とは、身体をもって布施をすることです。この身施は、誰にでも出来て、どこにでも出来る奉仕行であります。この身施が一般社会に広く行われるようになると、明るい世の中になるはずであります。

「無畏施」とは、人の悩み、恐れを除いてあげる布施です。お釈迦様の慈悲は、一切衆生の悩み、恐れ、苦勞を取り除いて下さいます。更に、お釈迦様は、誰にでも出来て、どこにいても実行できる『無財の七施』を説かれておられます。

- (1) 眼施(げんせ)：やさしい眼差しで人に接する。
- (2) 和顔施(わげんせ)：和やか明るい顔で人に接する。
- (3) 言辞施(ごんじせ)：優しい言葉をかける。

「仕合わせの和」と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行 玉蓮山 真成寺
 編集部 谷川久仁子
 TEL・FAX 0765-22-2268
 携帯 080-3744-2523
 こちらの番号でもお寺につながります。

- (4) 身施(しんせ)：身体をもって布施をする。
- (5) 心施(しんせ)：心の底から人を思いやる慈悲心を施す。
- (6) 床座施(しょうざせ)：電車の中などでお年寄りに座席を譲る。
- (7) 房舎施(ぼうしゃせ)：雨が降ってきた時など、軒下に雨宿りさせてあげるなど。

要するに、自分の周りの人々に対して思いやりの心を持ち悲しみ苦しみも自分のものとして考える。常に優しい微笑みを与え、真心のこもった言葉で語り、また人々に心にゆとりを与える態度で接するということです。また布施には、三輪清浄(さんりんしようじよう)という言葉があり、施しを受ける人、与える人は、お布施自体のそれぞれに執着があってはならないと言われています。私達が日常生活の中で、どんなに小さな事でも良いから、布施をするよう

に心がける事が一番大切な事であり、それは有り難うの感謝の気持ちを表したり、いつも笑顔で人に接したりすることで、必ずこの世の中は素晴らしい美しい世になってくるのです。つまり布施とは、お金を施すという意味だけではありません。このように誰にでも、いつでもできるのが布施なのです。出来ることから始めましょう。

